



十一面観世音菩薩立像（東京都指定文化財）

本像は、像高九十一・五cm、寄木造り、漆箔、彫眼、右手は肘をまげ掌を前に出し、左手は蓮華付き宝瓶を持つ。条帛を懸け、裳を着け、右足を少し前に出した立ち姿である。

体部は、腰に太く強みを見せ、ことに条帛、裳衣等の衣紋の彫り、刀利きに古風な趣を示し、面相も温和でありながら張り締まりもある。南多摩地方に伝わる鎌倉時代作の秀逸なりとして、昭和三十六年一月三十一日東京都の有形文化財に指定されている。

十一面観世音菩薩立像は、頭部に十一の化仏を付けている。正面の化仏は慈悲相、左方は憤怒相、右方は白牙上出、後方の一面は大笑相、頂上の面は仏を表している。

◇散歩のみどころ

多摩都市モノレールの大塚・帝京大学駅から、東中野、大塚周辺の凡そ4kmの行程。

駅周辺は昔、大栗川を利用し、堰を造った堰場である。川沿いに上流へ暫く歩き、右に折れて野猿街道に出る。大銀杏が見える場所が熊野神社で、その裏手が金住院跡。そこから街道に出て、旧道をモノレールに向かいながら天野薬師、天野三社、疣地蔵を参拝し、再び堰場跡に戻る。更に旧野猿街道の帝京大入口の信号を左に折れると馬場跡、都指定の十一面観世音菩薩立像、御手の観音が安置されている清鏡寺大塚観音堂に着く。そして街道の帝京大東信号からモノレール駅に少し戻った左側に最照寺、八幡神社がある。最後に望地橋を渡り、市指定の大塚明神の大銀杏を見る。モノレール沿いに駅まで戻り解散。

①大塚の堰

多摩都市モノレールの大塚・帝京大学の周辺を堰場と呼んでいる。堰（塞）は取水や水位など調節のために別の水路を作るもので、民家の田畑を水害から守るものであった。

昔の大栗川は、今よりもっと大きく蛇行し、大雨が降ったときなどは被害が大きかった。今は河川改修工事はほぼ終わっているが、右へ大きく蛇行しているのが判る。現在、大塚の堰は残っていない。

有名な玉川上水の堰は江戸時代には作られ現在も農業用水など、一部で利用されている。



多摩都市モノレール
大塚帝京大学堰場跡周辺

●大栗川の地名

大栗川は八王子の南東に位置し、鍮水の山中から源を発し、多摩市を通り、府中市に入って多摩川に注ぐ。新編武蔵風土記稿には、「本名は大庫裡川なり。水源は由木領中山村より出る。それより由木領を流れて、西の隣邑和田村よりこの地へ入り、村の中央を流れて、東の連光寺村へ至りて、玉川に落ち入る。この川の名とする謂われは、隣村に往古真慈悲寺ありて、その大庫裡の傍を流れしゆえ、斯くは号するとぞ」と記されている。

②熊野神社

祭神

泉事解男命(家津美御子大神)

速玉男命(伊邪那岐命)

意富加牟都美命(伊邪那美命)

境内神社

秋葉神社(迦具槌命)

東中野四九七

第六天社（猿田彦命）

住吉神社（表筒男命、中筒男命、底筒男命）

稻荷神社（稻倉魂命）

山之神神社（大山祇命）

社宝 棟札十一枚、神木（公孫樹）

● 由緒

「北朝の光明天皇の暦応元年（一三三八）土豪万子長なるもの紀伊国熊野大権現を崇敬し、この地の地勢彼我ともに酷似するゆえに悲願あつて、熊野三社を勧請し、黄金の幣帛と数多くの財宝を埋め、奉斎した。のちに新宮社・那智社を本宮社に相殿撰社として合祀。神宝の棟札古色にして三葉は判読至難。慶長十一年丙午（一六〇六）十一月二十三日、助成合力に代官山崎兵衛門尉とあり、宮本は金子図書祐と識され棟札多数収蔵している。」との説明がある。

例大祭等の神事執行は氏子崇敬者で、年末新年祭の儀式を宮司の司祭

で施行する。また七五三の祝典儀式などを行っている。

天正十八年（一五九〇）徳川氏、関東入国の八朔の故事を、天地安穩五穀豊穰五風十雨を願ひ、陰暦の八朔に神事執行している。大祭の式後、笹湯の湯花の行事を行うことが古くから慣例になっている。

かつては境内に神楽殿があり、お神楽や芝居が行われたが、今でも一連の行事や祭りは参詣の人々で賑わっている。



熊野神社鳥居



奥 殿



拝 殿

●熊野神社の大イチョウ

八王子市の市の木はイチョウであり、甲州街道の並木は見事だが、市内各所には、名木、巨木といわれる、イチョウもある。東中野の熊野神社のイチョウもその一つ。

野猿街道からも、高くそびえた姿が目につく。樹齢百三十年、幹周りは4m以上にもなる。このイチョウは、文久元年（一八六一）に、ここ東中野（当時は中野村）に住んでいた、富沢市兵衛・ワタ夫婦によって植えられたものと伝えられている。



秋葉神社、大六天ほかの社

子宝に恵まれなかった夫婦は、神仏に頼ろうと熊野神社に祈願した。やがて願いがかない一女を授かったという。喜んだ二人は、イチョウを奉納し、参道のわきに植えたもの。現在の参道はイチョウをよけるように曲折している。秋になると境内は黄色い落ち葉の絨毯に敷き詰められ、子どもたちの恰好の遊び場になっている。



熊野神社全景(中央が大イチョウ)



大イチョウのご神木

●熊野山金住院跡

宗派 真言宗高幡金剛寺末
本尊 阿弥陀如来
開創 年代不詳

江戸期には東中野熊野神社の別当であつたが、明治期に廃寺となつた。新撰組の隊士となつた斎藤一・諾斎は、後に捕われの身から解放され、明治三年（一八七〇）由木中野村金住院の住職となつた。その後大塚観音堂に寺子屋を開き、明治六年生蘭学舎（現八王子市立由木東小学校）で教育に尽くした。



熊野山金住院跡

③天野薬師

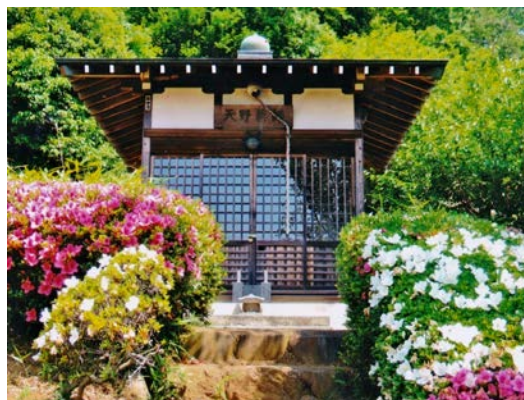
旧野猿街道北側の小高い丘の上に天野薬師が安置されている。薬師様とは、薬師経に説く東方の淨瑠璃世界の教主。衆生の病苦を救う如来。左手には薬壺を持ち、日光・月光菩薩を脇侍とした三尊を成している。朝観音、夕観音ともいわれている。大栗川のこの地域を、南側は井戸之上、北側は谷津入、東側を天野と呼んでいた。良質の水が湧き出たという。天野は、天の水と呼ばれ、



熊野山金住院跡

④天野三社

旧野猿街道北側の小高い森の中に天野三社がある。この神社は、右側に関東の霊山御獄社、中央に島根県八雲村にある熊野速玉大社、左側に水神を祀る榛名神社が奉られている。



天野薬師

いつしか天野と呼ばれるようになったという。酒造りが近年まで行われていた。



天野三社



天野三社鳥居

堰場の交差点からモノレール下の道を、中央・明星大駅方面に少し歩き、一つ左へ入った道の脇に安置されている。

疣取り水、疣取り地蔵など、疣に関するお地蔵様は市内に数ヶ所あるなかでも十四牀の地蔵がある堀之内の保井寺は有名である。疣とは、皮膚の上に突起した角質の小さな塊で、円形または乳頭水の扁平小隆起したもの。原因の多くはウィルスにより伝染することにあるという。

⑤ 疣地蔵



境内にある四国、西国、坂東などの巡礼記念碑



疣地蔵



疣地蔵の祠

⑥馬場跡

大塚の旧野猿街道の帝京大学入口バス停を大学方面に少し行った右側に「馬場跡」と刻まれた石碑が立っている。石碑には、「ここより間口三間奥行九十間の鉄砲馬場あり、江戸時代より昭和十八年頃まで近郷農家の農耕馬競技用として使用された。このたびの道路改修にあたり、ここに石碑として残す。昭和六十三年七月吉日」と記されている。それらしい直線の道が残っているものの、詳細は不明である。



馬場跡の碑

⑦塩釜山清鏡寺

大塚三七八

宗派 曹洞宗 もと天台宗
本尊 釈迦牟尼仏
寺宝 十一面観世音菩薩立像 鬘

豊臣秀吉制札（禁制書）

開山 下柚木の永林寺四世照鑑禅師

長銀大和尚

開基 小田肥後守源太左衛門

開創 文禄元年（一五九二）

現在の本堂は、旧本堂が関東大震災で倒壊したため、自由党広徳館の館長林副重（そえしげ）の家を、移築改造したもの。境内には十一面観世音菩薩立像と御手の観音様がある。



塩釜清鏡寺

●豊臣秀吉制札

天正十八年（一五九〇）五月に記されたもので、由木での乱暴や放火などを禁じている。長銀大和尚が小田原に行った折、手に入れたと伝えられている。時はまさに、秀吉が小田原城を、包囲攻撃している最中であり、興味深い。

禁制書（清鏡寺所蔵）

禁制 武蔵国多西郡之内 油儀之郷
一、軍勢甲乙人等、濫妨狼藉之事
一、放火之事
一、対地下人百姓、非分之儀申懸事
右条々堅令停止訖、若於違反輩者、
忽可被処厳科者也

天正十八年五月日 花押（秀吉）





古文書

禁制	武蔵国多西郡内 油儀の郷
一、軍勢・甲乙人ら、濫妨・狼藉の事。	
一、放火の事。	
一、地下人・百姓に対し非分の儀、申しかくるの事。	
右の条々、堅く停止せしめおわんぬ。もし違犯の輩に おいては、たちまち嚴科に処せらるべきものなり。	
天正十八年五月 日（朱印）	

古文書 読み下し

⑧大塚観音堂

本堂から更に石段を上がった所にお堂がある。元龜年間（一五七〇～七三）に八王子城主北条陸奥守氏照の家臣小田肥後守源太左衛門が再建したが、その後明治初期の火災で全焼した。更に、明治十四年（一八八一）報恩徳明和尚により再建され、幾度かの改修を重ね現在に至っている。観音堂の格天井には、四季の草花の見事な絵が描かれている。また欄間の彫刻も素晴らしい。



大塚観音堂



観音堂の格天井



本 堂

● 十一面観世音菩薩立像

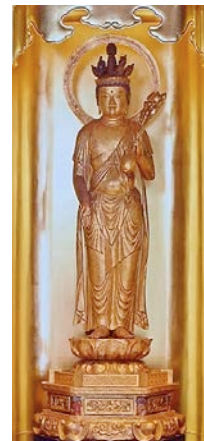
都

十一面観世音菩薩立像は、鎌倉時代初期のもので、安阿弥の作と伝えられている。八王子市松木の教福寺（明治初期廃寺）にあったものを移し、当地に安置したもの。多摩地区の鎌倉時代の秀作として、昭和三十六年に都の有形文化財に指定された。像高九一・五cm、寄木造、漆箔の立像。文化財の防火、盗難防止のため、収蔵庫にて保管されている。

● 御手の観音様

（千手観世音菩薩）

この観音様は、運慶の弟子湛慶の作と伝えられている。高さ約五十cm。今から八百四十年前、長寛二年（一一六四）播州赤穂高藤守藤原阿尊が関東巡礼の折、当地にて夢枕に出現し、観音様が手の一つ差し出し、この手を持って鎌倉の仏師に私の身体を作るよう命じられて彫らせたという。卯年卯月十六日に観音像が出来上がり、山頂にお堂を建立し奉安したという。今は「御手の観音様」として信仰を集めている。



十一面観世音菩薩



十一面観
東京都指定

尚、正月三日間と初観音祭りの、
年二回御開帳をしている。



御手の観音様
(千手観世音菩薩)



●わらじ奉納で健康祈願

お堂の中に、沢山のわらじと、ぞうりやサンダルが奉納されている。「病気が治りますように」「足腰がいつまでも丈夫でありますように」といった願いが書かれている。
わらじを奉納する習慣は、本来、様々な願い事が叶うようにというものの。つまり、「満足」を「足が満つる」と読み替え、そこから足に履くわらじを奉納し祈願したという。今でも、わらじを奉納することから、足腰の病の平癒や健脚を願う参拝が多い。

●かいそんぶつ 廻村仏

このお寺には、廻村仏と呼ばれる千手観音、不動尊、毘沙門天の三体の仏像が安置されている。かつて三体の仏像は若者に背負われ、遠くは新宿、厚木、入間まで巡り歩いてたそうである。この廻村仏の風習は、貞観二年（八六〇）から始まったとされるが、今は途絶えている。三体の仏像が村々を巡ることはもうないが、廻村仏に似たような風習は、裏



今でも堪えぬ草鞋奉納



奉納さ

高尾の集落で現在も続けられている。



廻村仏の背負い厨子



廻村仏
右：不動尊 中：千手観音
左：毘沙門天

観音堂の東側客殿脇に広さ百²m程の池があり、中ノ島に弁天様が祭られている。安産喜福の弁天様で子授けや子育てなど安産祈願をする。安産祈願の時には、安産でありますようにと穴の開いた杓子を奉納するという。またこの池の水が塩辛いのは、江ノ島の弁天様まで続いているからとの伝説もある。近くには、不動の滝もある。

●安産喜福の弁天様



厨子の裏の背負い紐



弁天池



現在使われている境内の塩釜



塩竈神社



安産

● 塩釜伝説

「昔、この谷戸に伝わる幻の翁が大釜に湯を沸かし、削った岩を釜の中に入れ、塩を作って村人を救った」といわれている。今でもこの谷戸を塩釜谷戸と呼び、裏山の八幡社には、かつて大釜が御神体として納められていた。

● 塩釜様の安産祈願所

弁天池裏の階段を上り終えた所に塩釜様を奉った安産祈願所がある。昔この付近を塩釜谷戸と呼び、塩気を含んだ湧水が出ていた。水でうがいをしたり、冷ました湯を飲むと風邪が直ぐに治ったという。またこの塩水で飯を炊いて食べると病気がちの人が元気になったともいう。この湧水で粥を作り、妊婦に食べさせると安産でよい子が生まれるとか。今でも安産祈願に訪れる夫婦が多いそうである。かつて塩釜谷戸は塩を作

る塩焼き場があったという。



清鏡寺境内に湧き出ている清水



● 斎藤一諾斎の墓と

斎藤一諾君碑

斎藤一諾斎は幕末の僧侶で新撰組に入隊し、後に多摩郡中野村（八王子市東中野）に定住し教員となる。入院前の僧名を秀全（ひでたけ）という。文化十年（一八一三）幕臣、鈴木伴次郎重斯の次男として江戸に生まれ、幼児から仏門に入り、諸所の寺で修行した。幕末期に甲斐国（山梨県）都留郡強瀬村全福寺の住職となった。慶応三年（一八六七）十月、五十四歳のとき新撰組隊士募集に応じ入隊、京に上って局長付となった。慶応四年（一八六八）一月（九月八日に明治と改元）鳥羽伏見戦を経て甲府に向かうとき勝沼の戦いで一番活躍をしたといわれている。その後土方歳三と共に宇都宮・会津と転戦したが仙台で新政府軍に降伏。明治三年（一八七〇）多摩郡中野村の全住院にむかえられ、大塚観音堂に寺子屋を開き地域の教育にあたった。

病気のため甲州の正覚寺の住職に転じ、余生を過ごしていたが、一諾斎の開いた寺子屋が明治六年（一八七三）生蘭学舎（八王子市立、由木東小学校）となったのを機に再び中野の地に迎えられ、由木地域の教育にあたった。

明治七年（一八七四）十二月十八日六十二歳で病没。

明治十四年（一八八二）大塚観音堂境内にかつて斎藤一諾斎を師と仰ぎ少年時代に恩恵を受けた人々、後に民権家として活躍した林副重・井上隆治・由木芳三郎など十名によって大塚観音堂境内に斎藤一諾斎の顕彰の碑が建立された。



斎藤一諾斎君碑

⑨ 八幡山無量寿院最照寺

大塚五二

宗派 真言宗智山派

本尊 不動明王 室町期の作

作者不明

開山 中興開山は永秀和上

開創 中興は寛永七年（一六三〇）

多摩八十八か所霊場十九番札所

元日野高幡山金剛院末、隣接する神社、八幡神社の別当寺。

大塚村の地名の発祥は、「大きな塚」のことで、その塚の上に八幡神社を建立したという。古墳としては未確認。

武州柚木領大塚村

「大塚村ハ鎮守八幡ノ社地大ナル古塚ナルガ故ニ起リシ村名ナリト云」

「新編武蔵風土記稿」

鎮守・八幡社

「大塚ノ上ニアリ勸請ノ年代ヲシラズ大猷院（將軍家光ノ諡号）殿ヨリ社領六石三斗ノ御朱印ヲ賜ハレリ神

體ハ應神天皇降誕ノトキノ御像ナリ
ト云：本地彌陀木ノ坐像：」

「新編武蔵風土記稿」

守護大名の領国支配から戦国の激動期、天正二年（一五七四）頃までは、本山修験正浄院と号していたのを改称したという。又、浄心院と無量寿院が合併して最照寺となったともいわれている。

中興開山永秀和上の入寂は、正徳年間（一七一〇～一六）と思われる。

火災により古文書などを焼失、由緒を辿ることは難しいが、代々上杉家の寄進を受けていたという名刹である。上杉家の家紋と同じ紋が、今も本堂に遺っている。

動乱と繁栄の時を経て、平和な数百年を過ごした寺の周辺は、古より土地を開き耕し、長い年月を掛けて作り上げた、典型的な農村風景だった。昭和三十年代末から多摩丘陵に進出してきた大学や、道路の拡張整備などにより、田園地帯は大きく様変わりをした。自然の風景として、

郷愁を覚える人も多いのでは：。
昭和六十三年より四年の歳月似て
本堂、山門、客殿等山容一新した。



丸に四つ目菱



最 照 寺



不動明王



本 堂

●六観音様

江戸期に彫られた石仏といわれる。
千手・十一面・如意輪・准胝・馬頭・
聖（しょう）を六観音という。そし
て不空羅索（ふくうけんじやく）を
含めると七観音という。



六 観 音

⑩大塚の八幡神社

大塚五一八

祭神

菅田別命（ほんだわけのみこと）

面足尊（おもだるみのみこと）

倉稻魂命（うかのみたのみこと）

社宝

神像一軀 神鏡 棟札等

創建

慶長十二年（一六〇七）

例祭

九月第一日曜日

領主の濱田郷左衛門が上郷の大塚
山に大塚八幡神社を創建し、寛永十
六年（一六三九）に社領六石六斗を
拝賜、社殿の再建を繰り返した。例
祭には、湯花神事と獅子舞が奉納さ
れる。境内には、神明神社、秋葉神
社がある。また、住民手作りの御神
輿や山車がある。



濱田郷左衛門頭彰之碑



大塚の八幡神社入り口



大塚の八幡神社鳥居

⑪大塚神明社の

大イチョウ

由木東市民センター駐車場横にある。大塚神明社は、町の開発により、近くの八幡神社に移転したが、神木とされていたイチョウは、この場所に残されることとなった。

樹齢約五百年、樹高約二十二m、目通り七mを誇る。

残った理由は多摩ニュータウンの建設で、目の前の道路が拡張されることになり、イチョウの木が伐採される計画が出たが、残して欲しいという地元の声で伐採を免れた。市は「大塚神明社のイチョウ」の名で、市の天然記念物に指定している。

枝からは「気根」「乳根」と呼ばれる筋が何十本も垂れ下がっている。都市化にもめげずに生き抜いている姿が、素晴らしい。



大塚神明社の大イチョウ

◎参考資料

- ・八王子市史
- ・八王子辞典
- ・八王子寺院めぐり
- ・埋蔵文化センターパンフレット
- ・歴史と浪漫の散歩道
- ・文化財見て歩き
- ・八王子市役所
- ・八王子市教育委員会
- ・清鏡寺パンフレット
- ・新編武蔵風土記稿
- ・インターネット各ページ
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・昭文社

